

農作物生育・技術情報4号

令和2年(2020年)7月6日

日高農業改良普及センター日高西部支所
JAびらとり JA門別町

1. 水稻生育状況(7月1日現在)

品 種	生 育 状 況		
	項 目	R2年	平 年
ななつぼし	草丈(cm)	44.8	42.5
	葉数(葉)	8.5	8.6
	茎数(本/m ²)	542	429
	幼形期 遅速日数	(7月5日) +0	7月6日 -

生育調査では草丈、葉数は概ね平年並みですが、茎数は、平年を上回っています。

幼形期は概ね平年並みと推察されますので、今後は冷害危険期に向けた水管理が重要となります。

【技術対策】

○病害虫の発生状況

- ・葉いもち：7月3日現在、初発は確認されていませんが、6月下旬の日照不足、定期的な降雨により、発生しやすい状況です。過去に発生したほ場を中心に、ほ場の観察を行い、発生の有無を確認してください。
- ・アカヒゲミドリカスミカメ(カメムシ)：本年は発生量が多いことが予想されています。水田周辺の草刈り等計画的に進めてください。

○幼穂形成期からの水管理

- ・ゆめぴりかはすでに幼穂形成期に達しています。幼穂形成期から10日間は、水深を徐々に上げ10cm程度の深水とする。ただし、茎数が少ないほ場では7月10日頃までは水深を5cm程度とし、分けつ促進を促す(10日以降は水深10cmを確保)。
- ・冷害危険期間(幼穂形成期10日後から7~10日間)は水深を徐々に上げ、最大20cm程度(できるだけ)の深水管理を行う(必ず止め水に!! **これ重要です**)。

2. 畑 作

(1)ばれいしょ

○疫病防除

降雨が続いているので多発しやすい条件にあります。7~10日間隔で定期的に防除を実施しましょう。また、菌核病、夏疫病等を含めた同時防除を検討しましょう。

○軟腐病防除

高温多湿条件が続くと多発します。特に窒素過多や倒伏したほ場で発生しやすくなるので、初発を確認したら速やかに防除しましょう。

(2)秋まき小麦

出穂30日後より穂水分測定による収穫予測が可能になります。測定を希望する方はJA及び普及センターまでお問い合わせください。

(3)豆 類

断根しないようにカルチ作業は7月上旬までに終了しましょう。

地力が低い場合や初期生育が劣っている場合には追肥をしましょう。

<追肥の時期と施肥量>

- | | | |
|-----|------------|-----------|
| ・小豆 | 本葉3葉期~開花始め | 窒素5kg/10a |
| ・大豆 | 開花始め | 窒素5kg/10a |

3. 主要野菜の生育状況

作物名	生育状況	技術対策
トマト	3月定植：4～6段目収穫中 4月定植：3～4段目収穫中 5月定植：1段目収穫中 6月定植：2～3段目開花 ・灰色かび病、半身萎凋病、アザミウマ類、尻腐れ果、網果先とがり果、花落ち、がく枯等が発生している。	・ハウスビニールのこまめな開閉により適正な温湿度管理に努める。 ・曇雨天時は過度のかん水、追肥は行わない。 ・ベット中央や茎葉で混み合っている部分を中心に摘葉を行う。 ・尻腐れ果の発生予防に石灰資材の葉面散布を行う。
ハウス軟白ねぎ	・3月定植収穫中。 ・ハダカバエ類、アザミウマ類、葉先枯れが発生している。	・ハウス周辺の除草を行う。 ・アザミウマ類は高湿度条件下で産卵されるので、降雨後は早めに薬剤防除を行う。
アスパラガス (ハウス立茎)	・萌芽～夏芽収穫始め。 ・アザミウマ類が一部で見られる。	・灰色かび病予防で、茎を軽くゆすり、老化花卉を落とす。 ・ハウス内湿度を高めないように換気に努める。 ・ハウス周辺の除草を行う。

* 日高管内でネギアザミウマに対する合成ピレスロイドの抵抗性が確認されています。今後は合成ピレスロイド系薬剤の連用を避け、ローテーション防除を行いましょう。

4. 牧草生育状況（7月1日現在）

作物名	生育状況				農作業	適要
	項目	R2年	平年	遅速日数	収穫期(平年値)	
牧草(1番)	草丈	85.2cm	94.6cm	+1	6/23(6/25)	降雨のため六半旬以降、収穫が停滞している
デントコーン	草丈 葉数	95.7cm 9.0葉	68.5cm 8.4葉	+2		生育は平年並みである 最低気温が高く、適度な降雨により、やや徒長気味である

●牧草の生育を適正にし、牧草割合を高めるため追肥を行いましょう。

- 1) 追肥により、収量が高まります。
- 2) 追肥により、分けつが発生し牧草割合が無追肥より高まります。(雑草の侵入防止)

●暑熱対策を行いましょう

暑熱ストレスがあると乳牛・肉牛の乾物摂取量が下がり、生乳生産・増体が低下します。また、受胎率低下による繁殖成績が下がります。

(1) 飼養環境の改善

ア 牛体に直接日光や反射光が当たらないよう、日除けやひさし等を設けたり、放牧地に庇陰林を配置する。

イ 換気を改善する①窓の解放②強制送風③トンネル換気

(2) 飼料給与の改善（乾物摂取量の低下に対応する）

ア 飼そうの清掃と改善 イ 飼料の多回数給与 ウ 清潔で十分な飲水確保

エ 高品質粗飼料を給与し、重曹などのバッファーや、必要であれば脂肪を添加

オ 濃厚飼料の給与割合を高める。 カ ミネラル・ビタミンの2割増給

5. 6～8月は「農薬危害防止月間」です！

◎農薬使用基準を遵守しまししょう。

◎農薬の飛散に気をつけまししょう。